

活動名 外国籍児童生徒のための日本語学習支援	団体名	NPO こどものひろばヤッチャル
	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 間瀬 尹久
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>今年度の活動は次の3点であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学習支援 日本語支援、教科学習支援を放課後と土曜日午前中、夏休みは週3回、それぞれ2時間程度行った。 2.バスツアー 日本社会や文化を体験を通して知るためにバスツアーを年2回行った。 3.ボランティア研修会 ボランティア向けに学習支援や子どもに寄り添う支援の方法などについての研修会を2回開催した。 4.保護者会 子どもたちの保護者を対象とした学校教育についての説明会を開催した。 <p>◆実施時期 学習支援:火曜の放課後及び土曜の午前。夏休みは週3回。それぞれ2時間程度 バスツアー:夏休み、春休みにそれぞれ1回行った 研修会:12月および3月 保護者会:7月 場所 主に東広島市市民文化センター2階研修室 バスツアーについては宮島、広島市内、東広島市内</p> <p>◆参加人数 1.学習支援:子ども764名、ボランティア460名 2.バスツアー:子ども58名、保護者9名、ボランティア12名 3.ボランティア研修会:52名 4.保護者会:6名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:1,361名</p>		



にはんごひろば U18 教室風景



高校入試に合格してピースサイン！



第2回外国につながるこどもの支援研修会



福富町体験ハウスでU18メンバー大集合
(バスツアー)

◆実施に伴う効果

- 1.この活動を行うことで、地域の人々に外国につながる子どもたちが存在することを認識させることができた。
- 2.教育委員会とのパイプができ、学校の先生方ともコミュニケーションが取れるようになりつつある。
- 3.ボランティアに広島大学の学生が参加していることで、大学の教官にも関心を持ってもらうことができた。
- 4.研修会を行うことで、東広島市だけでなく、近隣地域の子どもたちの支援を行っている団体との情報交換ができるようになった。

◆苦労した点

- 1.自分の意志に反して日本にやってきた子どもたちは、学校生活や日本の生活に慣れず、学習にも向かうことができない場合がある。また、家庭環境も決して良いとはいえない場合が多い。このような子どもたちにどのように将来の夢をもたせられるか。
- 2.所属する学校によって、日本語など外国につながる子供たちへの教育環境が違う。学校の日本語担当教師や学級担任との連携が必要であると思うが、なかなか難しい。現在教育委員会担当者とのパイプはできているので、そこから学校と連携ができるように今後していきたいと思う。
- 3.子どもたちの保護者は自分自身も日本の生活に必死である。子供の教育については学校に任せていると言う保護者が多く、言葉の壁が厚いので、心配なことがあっても学校に問い合わせることは少ない。ヤッチャルのメンバーは個人的にいろいろな相談を受けているため、保護者会が必要だと考え、毎年行っているが、参加者が少ない。今後どのようにしていくか開催時期や場所など工夫が必要だ。
- 4.高校進学、さらに大学進学は言葉の壁や経済的な困難を抱えている子どもたちには大きなハードルである。子供たちに自信をもたせ、継続して努力をさせていくことが非常に難しい。
- 5.子供たちの生活に関わる行政文書、学校関係書類等の記入や諸手続きすべてにおいて、親が自力で対処するのが困難であり、学習支援に加えて生活支援、とりわけ高校進学支援に力を注ぐ必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- 1.将来の目標を持つことにつながる活動(職業体験、先輩との交流会など)を行い、子供たちの日本社会での自立を促すことを目指していく。
- 2.同じ活動をしている近隣の団体と連携し、課題を共有し、協働して解決策を模索する。
- 3.教育委員会とより緊密な関係を築き、情報交換を密に行い、子供たちの学習支援を強固なものにしていく。
- 4.商工会、青年会議所などに連携を働きかけ、子供たちの職業意識を育む活動を計画する。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・頂いた助成金があったので、研修会、バスツアーをそれぞれ 2 回行い、また、子どもの支援の参考になる書籍もたくさん購入できました。この一年は充実した活動ができたと思います。
- ・来年度以降も今年度同様、子供たちに寄り添う活動を続けていきたいと思っています。